

# 中北.com

地域教育情報紙

チュウホク ドット コム

中北教育事務所  
地域教育支援スタッフ

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

no

4

中北の地域社会 (COM munity)の心の交流 (COM munication)をめざします

## 平成25年度「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」(全9回) が終了、受講者37名に修了証が渡されました！

山梨県教育委員会の主催により、山梨県立大学を会場として全9回に渡って開催された、平成25年度「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」が最終回を迎えた。前半では、これからの保育政策を決める内閣府「子ども・子育て会議」の委員である、淑徳大学 総合福祉学部教授の柏女霊峰氏による講演が行われた。また後半では、全7グループの自主学習の実践発表があり、中北地区からは3グループが発表を行い、最後に閉講式の中で受講者に修了証が渡された。

### 「子育て支援のこれから～支援とは何か？～」

淑徳大学 総合福祉学部教授 柏女 霊峰 氏

#### 子ども・子育て支援新制度について

新制度は、平成27年度の本格的なスタートを旨とし、介護保険制度を模した仕組みであり、消費税財源を恒久的にこの新制度に充て、子ども・子育て支援を充実するための仕組みである。その背景は、待機児童解消、幼保一体化、幼児期の教育の振興、全世代型社会保障の実現の4点である。

新制度誕生後に給付される子ども・子育て支援給付には、子どものための現金給付(児童手当)と、子どものための教育・保育給付があり、後者は、①施設型給付と、②地域型保育給付、に分けられる。①の対象となる教育・保育施設には、新・幼保連携型認定こども園、保育所、幼稚園、認定こども園があり、②の対象となる事業には、小規模保育事業(定員20人未満)、家庭的保育事業(保育ママ)、居宅訪問型保育事業(ベビーシッター)、事業所内保育事業がある。

子育ての様々なニーズに応じる支援である、地域子ども・子育て支援事業(急な仕事や病気、兄弟姉妹の学校行事などの際に利用できる「一時預かり」や、「病児保育」、「放課後児童クラブ」)には、消費税財源等により総額1兆円を超える額が充当され、充実が図られる。



#### 新・幼保連携型認定こども園とは？

新・幼保連携型認定こども園とは、認定こども園法に基づく幼児期の新たな学校であり、かつ児童福祉法に基づく児童福祉施設である。設置主体は、国、地方公共団体、学校法人、社会福祉法人であり、新・幼保連携型認定こども園には、学校教育と保育を担う職員として、新たに保育教諭等が置かれる。保育教諭は、幼稚園教諭免許状と保育士資格を併有することが原則である。なお、5年間は、片方の資格、免許のみでも保育教諭になることができる。設置認可、指導監督は都道府県単位とし、大都市特例を設けている。なお、保育所、幼稚園からの幼保連携型認定こども園への移行は義務づけられていない。

#### 保育所保育指針にみる保護者支援の原理と保育者の視点

保育所は、保育指針の第一章(総則)に示されているように、その特性を生かし、入所する子どもの保護者に対する支援、及び地域の子育て家庭への支援について、職員間の連携を図りながら、積極的に取り組むことが求められるが、中でも以下の2つの原理は特に重要である。①保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有すること ②一人一人の保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮して、保護者の養育力の向上に資するよう、適切に支援すること

また、保育者の役割としては、以下の4点が浮かび上がってくる。

①親と子の間に介在し、よりよい親子関係の形成に寄与する ②子どもとの応答的な関係を取り結び、子どもの安全基地となる ③子ども同士の間で介在し、仲立ちをし、子ども同士の民主的な人間関係の取り結びを支援する ④子ども同士がきまりを守りつつ自主的に活動する場を見守り、必要に応じて介入する

保育者は、こうした立ち位置を縦横に駆使しつつ、子どもと親とのよりよい関係の構築や、子どもの発達の保障に取り組んでいる専門職といえるのである。

## 中北地区の3グループによる実践発表

### <第1グループ>

#### テーマ：公園に行こう！！

「公園デビュー」の代わりに、ネットの交流サイトで育児の仲間を探したり、スタッフのいる屋内の子育て支援センターを利用する親が増える中、公園で遊ぶ親子の数は確実に減っている。室内遊びにはない、自然の中での豊かな体験や地域の人との出会いの大切さを検証するため、甲府市緑が丘公園にてアンケート調査を実施した。結果、公園の利用者は、公園の良さをしっかりと理解していることが分かった。さらに公園にいた約10人を前に紙芝居を行い、公園の楽しさも併せてアピールした。



### <第2グループ>

#### テーマ：県内市町村の一時預かり事業とファミリーサポート事業の調査

少子化の進行、地域の希薄化に伴い、子育てに不安感や孤立感を持つ家庭が増えている。さらに近くに親族がいなかったり、サポートの環境が分からず、緊急時に子どもを預けることができない等の相談も多い。そこで県内の一時預かり事業とファミリーサポート事業のそれぞれについて、対象年齢・利用時間・料金等8項目にわたる調査を行い、一覧表を作成し、考察を加えた。最後に提言として、子育て支援機関同士のネットワークの構築やファミリーサポート事業の更なる整備、そして市町村の子育て支援事業に関わる窓口体制づくりの3点を挙げた。



### <第3グループ>

#### テーマ：パパと遊ぼう！！～子育てパパサークル～

「父親への育児サポートを明確に実践すれば、父親が子育てに加わり、子どもを中心に、家族が幸せを実感するだろう」という仮説を立て、父親向けにアンケートを実施。その結果をもとに父親と子ども(未就学児)向けのイベントを企画したところ、2～3歳児の親子10組が参加した。事後アンケートからは、「日頃母親が感じている子育ての喜びや楽しさ、不安や苦勞を感じたり、子どもと楽しく過ごす方法を知ることができた」、「普段は知らない子どもの表情を初めて知った」、「もっとこのようなイベントに参加したい・開いてほしい」といった感想が多く得られ、仮説を証明することができた。



## 第28回 国民文化祭・やまなし2013 甲斐市

### 「小学生吹奏楽フェスティバル」開催！

～ふじにひびけ♪ みらいにはばたくハーモニー～ 11月3日 双葉ふれあい文化館

第28回国民文化祭・やまなし2013 甲斐市「小学生吹奏楽フェスティバル」～ふじにひびけ♪ みらいにはばたくハーモニー～が、11月3日、双葉ふれあい文化館にて、満員の聴衆を集めて開催された。保坂市長・藤原市議会議長の挨拶の後、県外2校を含む以下の5校が見事な演奏を披露した。

柏市立酒井根西小学校（千葉県）  
坂城町立南条小学校（長野県）

駿台甲府小学校  
甲斐市立敷島南小学校

甲斐市立竜王北小学校  
（演奏順）

## 柏市立酒井根西小学校吹奏楽部（千葉県）

東日本学校吹奏楽大会での3年連続金賞受賞をはじめ、日本管楽合奏コンテストでも2度の最優秀グランプリ・文部科学大臣賞に輝く、まさに名門校である。演奏後のインタビューでは、部長の佐藤さんと副部長の片岡君が、「みんなで楽しく演奏ができてよかった。練習は平日が4時から1時間、また週末は3時間で、みんな4年生から楽器を一から始めて頑張っている。」と元気に答えた。



## 坂城町立南条小学校金管バンド 南条ハッピーブラス（長野県）

昨年度の全日本小学校バンドフェスティバルでの金賞受賞や、TBSこども音楽コンクールでの審査員特別賞受賞等、これまで全国大会で3回、最高賞に輝く全国屈指の強豪校である。演奏後のインタビューでは、部長の高山さん、副部長の丸山さんが、「お客様にハッピーが届けられるよう、精一杯演奏した。普段からミストーンを減らしたり、音の動きや強弱に気をつけたり、またタンギングを間違えないよう心がけている。学校での練習は、朝の10分と火曜、木曜の2時間の中だけなので、家に帰っても練習をしている。」と元気に答えた。



## 何事も出会いから！

元々は剣道が専門の竜王北小の古屋先生の最初の赴任校は敷島南小であった。そこで先輩の丸茂先生と出会い、その後の師弟関係の中で今日の竜王北小吹奏楽部の地位を築いてきた。そしてこの両先生を応援してきたのが、西関東吹奏楽連盟で名誉理事長を務める平野廣海先生である。平野先生は20年以上に渡り、指導法や選曲を含め、さまざまな相談に乗ってきたという。今回の公演に際しても、丸茂先生は、直前までデジタルデータを聞いてもらいながら演奏に関する指示を仰いでいた。

教師も児童（生徒）もさまざまな出会いによって、新たな可能性への道が拓かれ、その道を切り拓こうとする情熱が双方に備わっていれば、想像もつかない成果に結びつく可能性があることを、甲斐市内2校の小学校の吹奏楽部は物語っている。

### 全日本吹奏楽連盟 名誉会員 西関東吹奏楽連盟 名誉理事長 平野廣海先生より

今回のフェスティバルに、全国トップレベルの2校を招待できたのは、国文祭の行事ということに加えて、竜王北小、敷島南小の両校が全国レベルの大会で数々の優秀な成果を収めてきたからに他ならない。両校と、招待された2校との技術的な差は、ほとんどないと言ってよい。

甲斐市内の2校の小学校が、ともに全国大会での上位入賞を、連続して果しているのは奇跡と言ってよく、その功績の裏には計り知れない努力の跡が窺われる。さまざまな制約や部活動の位置づけのない小学校での活動には大変な面もあろうが、他の小学校のお手本となるよう頑張してほしい。そして両校の卒業生が、中学や高校でも活躍し成果を収めていることから、県全体の吹奏楽のレベルアップへの貢献も極めて大きい。



＜駿台甲府小学校吹奏楽クラブ＞



＜竜王北小学校吹奏楽部＞



＜敷島南小学校吹奏楽部＞

## 卒業を前に6年生は...

今年度も出場を果たした東日本学校吹奏楽大会では、昨年の銀に次ぐ銅賞に輝いた竜王北小、また西関東小学校バンドフェスティバルにて銀賞に輝いた敷島南小のそれぞれの代表に今の心境を聞いてみた。

竜王北小の部長の望月さんは、「東日本学校吹奏楽大会では銅賞だったが、一年間たくさんの人に感動してもらえる演奏ができたことが一番よかった。応援してくれる人たちへの感謝の気持ちを忘れないようにしたい。また練習はもちろんのこと、挨拶や返事ができることを大事にしていきたい。」と述べた。また敷島南小の部長の坂本さん、副部長の海口さんは、「演奏を通して大きな拍手をもらったり、たくさんの人に感動してもらうことが何よりうれしい。今後も集団行動や挨拶、返事などの基本的なことを大切にしたい。後輩には、楽器とともにわたしたちの気持ちもしっかりと引き継いでほしい。」と述べた。

## 「少年の主張」全国大会で奨励賞受賞

山梨県立あけぼの支援学校中学部二年

飯久保 采佳 さん

題名 **「伝える」と「つながる」**

平成25年度「少年の主張」県大会にて、最優秀賞に選ばれ、関東・甲信越静ブロックの審査を経て、全国大会に見事に出場、奨励賞を受賞した山梨県立あけぼの支援学校の飯久保 采佳さんに、全国大会に出場した感想等を聞いてみた。

「発表者は控え室待機だったので、他の出場者の主張は聞けなかったが、すごく緊張している中で、応援してくれる仲間のためにも頑張ろうという意気込みが伝わってきた。」また、この主張を通して、改めて伝えたいことを聞くと、「車椅子のことや障がいのことについて教えたり、知ろうとしたりすることがお互いに必要であり、社会の中で、整っているところと、まだ整っていないところがあるので、もっと改善したらいいと思う。」と答えた。



＜スピーチ全文＞

「ディズニーサービスの神様が教えてくれたこと」。私が読んで、感激した本です。私は、ディズニーランドが大好きで、よく行くのですが、いつも驚くことは、その、サービスの徹底ぶりです。車椅子の私が、家族と行っても、困ることは、ほとんどないのです。そんなディズニーに興味があり、四月にこの本を読んで、私は、とても驚きました。

手術をしなければ命が続かない、ベッドに寝たきりの少年を、憧れのディズニーランドに連れて行きたい。そんな母親の思いが、一本の電話をかけさせ、キャスト全員が協力し、夢を叶えたという話が載っていたからです。ベッドに寝ている状態でディズニーランドに行き、一体何ができるのでしょうか？ 想像もできませんでした。

しかし、キャスト達は、可能なアトラクション、食事などの計画を立て、「夢」を現実にしました。

私が一番すごいと感じたのは、母親の行動です。「無理だ」とあきらめず、ディズニーランドに相談してみた、その行動がなければ、何も始まらなかったのですから。

次に、受け入れを決めたディズニーランドと実際に対応したキャスト達。利益のことだけを考えたら、とてもできません。相手のことを本気で考えてサービスを行えば目には見えない「サービスの神様」が現れて、お客さんとキャスト、両方の夢を叶えてくれる。そんなディズニーの精神に、私はとても感動しました。

そして、この感動を誰かに伝えたい、そう思い、私は今ここにいます。

「相手のことを本気で考える。」その大切さは、車椅子に乗っていると痛いほど感じます。買い物で車椅子に乗ったお年寄りを見かけます。その車椅子に傷があると、押す人が不注意でぶつけているのでは、と思います。また段差を無理に押ししているのを見ると、「乗り心地がとても悪いのに」と感じます。お年寄りといえば、学校で驚く話を聞きました。去年のデータでは、全人口の24%ほど、12年後には、28%、3500万人が高齢者となるそうです。私達が20代半ばになる頃、多くの高齢者を支える社会がやってくる。

そこで、私には、私達には、何ができるのか。そんなことを考えるようになりました。

車椅子の私に、できることなどないのではないかな。でも、無理だとあきらめたら何もはじまらない。

まずは、声を上げることができると 생각합니다。車椅子を知っている者として、決してでたらめな介助ではない、やさしさを持った、温かい介助をしてほしい。そう強く思います。そのために、工夫する点、注意してほしい点を、私は伝えることができます。介助に対してあれこれと注文をつけ、相手が嫌な気持ちになったら申し訳ない、そんな気持ちの人も多いはず。もちろん私も。でも、何も言わなければ、お互いの理解にはつながりません。

お互いの理解へのきっかけとして、私は、多くの世代の人達と交流をしたいです。私達の学校では、毎年、地域の老人会との交流があり、校内でも、小・中・高等部が一緒にいるので、とても関わりが強いです。たとえ、言葉が話せなくても、友達が困っていれば、視線や身振りで伝える生徒もいます。それにより、チームワークのような形で、支えあい日々を過ごしているのです。

社会でも同じだと思います。気持ちを「伝える」ことで、人は「つながる」。「伝える」勇気を持って、人と「つながろう」とする。ディズニーランドに電話をかけた母親の勇気、そこから生まれた奇跡のように、私も小さな勇気を大切に、人とつながろう、また、誰かと誰かをつなぐ人になりたい。そう、思っています。

### ＜峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会より 中北.com をご覧の皆様へ＞

10.22 地域教育フォーラム「考えよう！子どもの貧困」で取り上げた、「NPO 法人フードバンク山梨」による第8回フードドライブでは、3.8トンの食品が集まったそうです。年末に向けて、一人でも多くの方が温かい年越しができるよう、第9回フードドライブへの御協力をお願い申し上げます。（期間、並びに集荷場所等につきましては、同封のチラシをご覧ください。）

平成25年度『中北.com』No.4

編集・発行  
中北教育事務所 地域教育支援担当  
飯窪 阿部 今福

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4  
電話 0551-23-3046  
ファックス 0551-23-3013

『中北.com』は中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

アドレスは次のとおりです。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>